



# ふるさと笠松の「モラルセンス」No.5



## 「笠松の偉人」発見 その名は伊藤 冠峰 (いとう かんぼう)

### 昭和の初めまでは、国定教科書：修身(道德)に取り上げられていましたよ。 伊藤 冠峰！

伊藤 冠峰は、江戸時代の漢詩人として有名です。もしも、江戸に住んでいれば荻生 徂徠（おぎゅう そらい）にもまさる程の名声を得たろうと言われていたかもしれません。将軍に漢詩を教えていたかもしれませぬ。それほどの実力のある人でした。

冠峰は、1717年(享保2年)に伊勢の国三重郡菟野村(現在の三重県)に、絹物商の清水笹右衛門の次男として生まれました。

冠峰は子どものうちから、ぜいたくな暮らしをしないで、物を大切に育てられました。性格も素直で努力家でしたし、本を読むことが何より好きな少年でした。

29歳の時、店は兄弟にまかせて、名古屋の中西 淡淵（なかにしたんえん）という儒学者のところで勉強することにしました。一緒に伊藤玄沢（いとう げんたく）に医術を教してもらいました。

伊藤玄沢は、冠峰がまじめで熱心に勉強しているのを、自分の妹の婿養子になってくれるように頼みました。冠峰は喜んで承諾いたしました。そのため、清水という名字から伊藤に変わりました。

冠峰は1756年(宝暦6年)に名古屋から笠松村に移り住みました。屋敷に竹を植えて「緑竹園」と名前をつけ、田畑を買って百姓仕事もしました。病気の人を治したり、学問を教えたりして、村人から大変親しまれていました。冠峰は笠松に転居後は、江戸や名古屋からの儒学の教師職を断り続け、1787年(天明7年)70歳でなくなりました。



伊藤冠峰先生遺像 青山蘭（1790）  
（笠松小学校蔵）

善円にせいになま金をそ送をへやでいやはれやいあし迎親ををはと宮とう  
悪の器とで、言。人水は方葉  
の友に言。人は言葉  
の器とで、言。人は方葉  
の友に言。人は言葉

明和の頃、美濃（笠松村）に伊藤冠峰（いとうかんぼう）という学者がいました。冠峰は、大淵（なんぼう）という学者がいました。冠峰は、大淵（なんぼう）という学者がいました。冠峰は、大淵（なんぼう）という学者がいました。冠峰は、大淵（なんぼう）という学者がいました。

進んで助ける心掛けが欲しいものです。友達が災難にあったのを知ったら、進んで助ける心掛けが欲しいものです。友達が災難にあったのを知ったら、進んで助ける心掛けが欲しいものです。友達が災難にあったのを知ったら、進んで助ける心掛けが欲しいものです。

冠峰は旅費として、いくら工面したのでしょうか？・・・15両のお金を用意しました。江戸時代には1両でお米が3俵（60kg×3俵）買えました。今のお金の価値になおすと、1両は7万円ほどです。15両というと百万円ぐらいになるとかれます。冠峰にとってはなかなかの大金だったのかと思います。伊藤冠峰については笠松町図書館にある「伊藤 冠峰」大衆書房を参考にしました。皆様も是非お読みください。



小学修身書 巻二（児童用）（大正2年発行）  
第16頁 冠峰とあり

国定教科書に掲載された文章  
（現代語訳・文責事務局）